



白桜小だより

平成30年度 7月号
中野区立白桜小学校
校長 宇賀神 佳子
平成30年 7月 2日発行

「千葉ホークス」のみなさんから学ぶこと

副校長 志賀 健人

6月9日（土）本校では学校公開として地域や保護者の皆様に子供たちの学習する様子を見ていただきました。2～3校時は、本校の道徳授業地区公開講座の開催に合わせて、車イスバスケットボールチームの千葉ホークス4名の方々にお願いいただきました。お会いする前は、「どうして車いすの生活になってしまったのか。」「つらいことも、きっと多いのでは。」「何かしてあげられることはないだろうか。」そんなことを考えながら当日午前9時ごろ、お迎えをしました。

4名の方々は一人ずつ自分の自動車でいらっしゃいました。車のドアを開け、自分で車いすを出し、乗り移り、道具の用意を始めました。手伝うことを探していたのですが全てご自分で準備されました。足は膝下がなく義足をつけていらっしゃるか、腰から下が動かずに自分の腕で膝を持ち上げながら作業をする方もいらっしゃいました。その準備をしている間も仲間とおしゃべりを楽しみながら明るい雰囲気でした。みなさん元気で賑やかなのです。

子供たちが体育館に入場し千葉ホークス4名の方々とあいさつをし、授業が始まりました。自己紹介では障害の様子やそうなった理由もお話してくださり、その後はパフォーマンスを見せてくださいました。車いすを操り右へ左へターンしていく様子、シュートをきれいに決めていく様子、車いすごと倒れてもバランスをとりながら起き上がっていく様子……。技の巧みさ、力強さ、スピードに魅せられて、子供たちからは「オー——ッ！」「すごーい！」、そんな歓声が何度も上がりました。

パフォーマンスだけでなくお話もたくさんしてくださいました。「夢をもつことを大切にしよう。」という子供たちへのメッセージが中心でした。大人たちも考えさせられるお話でした。

5年生は車いすバスケの体験活動もさせていただきました。実際に車いすに乗り、前や後ろに動いたり方向を変えていこうとしたりするのはとても難しいことです。ボールを持って動こうとするとなおさらです。5年生は、車いすに乗って体験することでその難しさを知るとともに、逆に千葉ホークスの皆さんがどれだけトレーニングを積んでいるのかを再認識することができました。

子供たちも、私たち大人たちも、千葉ホークスの皆さんから学ぶことが多くありました。障害を持つことについての理解を深め、選手の力強さに驚愕し、自分の夢を意識して学習を進められたと思います。障害を持つ方々への意識を大きく変えてくださった千葉ホークスだったと思います。

ご参観の保護者の皆様にもご意見をいただきました。

「生の迫力・技に目を奪われ、あっという間の45分間でした。苦しみや絶望を乗り越えて生き生きとしている目の前の選手の皆さんから、私もがんばらなくちゃ、と元気をもらいました。更に自分の夢って何？と改めて考えるきっかけももらいました。これからは車いすバスケのニュースが耳に入ることでしょう。試合を見に行きたいし、2020年のパラリンピックも楽しみです。」

「5年生全員が車いすバスケのゲームを体験することができて本当に貴重な素晴らしい経験ができたと思います。改めてこの機会を与えてくださったこと、千葉ホークスの選手の方々に礼を伝えたいと思います。子供と試合のスケジュールを調べたので、是非見に行つて応援したいと思っています。」

他にもたくさんのご意見をいただいております。ありがとうございました。